

難民—多文化共生の視点から

映画『異国に生きる—日本の中のビルマ人』上映会
と
トークセッション（ビルマ料理のお弁当付き）



© Masaya Noda

2015年9月、地中海のビーチに横たわる男の子の写真が、世界に衝撃を与えました。男の子は、3歳のシリア難民でした。

昨今、日本国内では、「積極的平和主義」に関する、さまざまな議論が起こっていますが、海外に目を転じると、内戦や地域紛争の多発により、多くの難民が生み出されています。私たちは、積極的に平和に貢献するために、何を知り、何を直視し、どのように考えればよいのでしょうか？

『異国に生きる—日本の中のビルマ人』は、1991年、ビルマ（ミャンマー）軍事政権の弾圧を逃れ、妻を祖国に残して日本に渡ったビルマ人青年・チョウチョウソーさんの14年間を記録した映画です。現在、チョウさんは、東京でレストランを経営しています。

ビルマ料理のお弁当を食べながら、難民当事者であるチョウさんや、難民支援の現場で働く人の話を聴いて、一緒に考えてみませんか？

●日時

2016年2月11日（木）11:00～15:00（10:30 受付開始）

●場所

聖心女子大学 1号館 205号室

（東京メトロ日比谷線 広尾駅 2番出口より徒歩3分）

●定員 60名

●参加費 1,500円（ビルマ料理のお弁当付き）

※お昼持参の方は参加費1,000円

●お申し込み

<http://kokucheese.com/event/index/347120/>

〈プログラム〉

1. 『異国に生きる—日本の中のビルマ人』上映（11:00～12:40）
2. ビルマ料理のお弁当を食べながら懇談（12:40～13:10）
3. トークセッション（13:10～15:00）
チョウチョウソー（ビルマ難民、映画の主演）
田中志穂（難民支援協会）
松尾慎（東京女子大学）

●お問い合わせ

吉峰（多文化 SIG 事務局） yoshimine@mac.com